

3月のGlobal Session (2026)のお知らせ

期日：2026年3月29日(日)10:30~12:00

場所：ガレリア3階 会議室

ゲスト：濱田雅子さん(アメリカ服飾史研究者・神戸市在住)

オンラインでの参加

コーディネーター：亀田博さん(大津市在住・ツアーガイド)

参加者：10名程度

参加費：500円 (高校生以下は無料)

タイトル：**濱田雅子の服飾講座『服飾から見た生活文化』第30回**

テーマ 「古代メソポタミアの服飾史を紐解く！」

概要：

皆さん、古代メソポタミアの地に足を踏み入れ、数千年前の人々がどのように服を選び、身にまとっていたのかを想像してみてください。バビロニア、アッシリア、そしてペルシャ帝国の興亡は、ただの歴史の一部ではありません。それは、彼らの文化、信仰、そして社会的地位を反映した、色鮮やかな服飾の物語でもあるのです。

この講座では、メソポタミアの服飾がどのように進化し、時代ごとにどのような特徴を持っていたのかを探ります。実物の遺物や文献を通じて、当時の人々の生活や価値観を垣間見ることができるでしょう。さあ、古代の衣服が語る物語に耳を傾け、彼らの世界と一緒に旅してみませんか？

今回の講座では、古代メソポタミアの服飾に焦点を当て、当時の文化や社会背景を交えながら解説していきます。

内容

●メソポタミア文明の紹介

- ・チグリス川とユーフラテス川に挟まれた肥沃な三日月地帯で栄えた文明。
- ・紀元前にはすでに高度な文明が存在し、灌漑農業や冶金技術が発達。
- ・バビロニア、アッシリア、ペルシアなど、強力な国々が興亡を繰り返した。

●バビロニアの服飾

- ・シュメール人の服飾をベースに、独自の文化を反映。
- ・カウナケスと呼ばれる、羊毛で作ったスカート状の衣装が特徴的。
- ・ウルのスタンダードなどの遺物から、当時の様子を垣間見ることができる。

●アッシリアの服飾：

- ・エジプトの影響を受けつつも、独自の進化を遂げた。
- ・織物技術がさらに発展し、刺繍などの装飾も洗練された。
- ・蛇のデザインの腕輪やザクロを模した腕飾りなど、個性的なアクセサリーも登場。

●ペルシアの服飾

- ・広大な領土を誇り、織物生産が盛んに行われた。

・黄色系統と紫色の使用が特徴的。 ・地中海産の紫貝から採取した貴重な染料で染めた色の衣服は、高貴な色として珍重された。

●ヘンナと貝紫

- ・ヘンナは植物由来の染料で、ボディペイントなどに使用された。
- ・貝紫は、地中海産の紫貝から採取した貴重な染料。
- ・当時の染色方法や貝の生態など、興味深い情報も紹介。